

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU部会
地上業務委員会（第35回） 議事概要（案）

1 開催日時

平成27年6月23日（火） 15:00～16:50

2 場所

合同庁舎2号館 総務省10階 共用10会議室

3 出席者（敬称略、順不同）

[専門委員]

三瓶 政一(主査)、小川 博世（主査代理）、足立 朋子、小笠原 守、川口 さち子、小泉 善子、阪田 史郎、田北 順二、橋本 明、松永 彰

[関係者]

今田（KDDI研究所）、大原（KDDI（株））、辻（NICT）、小山（ARIB）、谷口（JVCケンウッド）、出浦（JVCケンウッド）、大槻（NTT研）、荒木（NTT研）、植田（NICT）

[事務局]

森下、大村、圓谷（以上、移動通信課新世代室）、藤沼、柴田（以上、衛星移動通信課）、加賀谷、阿部、佐々木（以上、基幹通信課）

4 配付資料

資料地-35-1	地上業務委員会（第34回）議事要旨（案）
資料地-35-2	ITU-R SG5関連会合報告書（案）
資料地-35-3	ITU-R SG5関連会合への日本寄与文書（案）
資料地-35-4	ITU-R SG5関連会合への対処方針（案）
参考資料 1	ITU-R SG5関連会合の開催案内
参考資料 2	ITU-R SG5関連会合の日本代表団一覧
参考資料 3	地上業務委員会構成員名簿

5 議事概要

（1）地上業務委員会（第34回）の議事要旨について

【資料地-35-1】

地上業務委員会（第34回）の議事要旨について、事務局から後日メールで送付する旨説明があった。

(2) ITU-R SG5関連会合報告について

【資料地-35-2】

事務局から、ITU-R SG5関連会合報告後、以下のコメント及び質疑応答があった。

橋本構成員： SG4で承認待ちのJTG報告案を除き、SG5の勧告案・報告案全て承認された。

三瓶主査： バックホールは5Cなのか。

橋本構成員： IMTのバックホールは固定通信であるなら5Dではなく5Cが担当。

荒木氏： 5Dにリエゾン出している。M.[IMT.ARCH]にデータが追加あった。

三瓶主査： 5Gのアクセス網のレートが大きくなり、光バックホールがそこにあるということと理解。

橋本構成員： SG5入力文書の情報は参考資料ではなく、報告書の中に入れるほうがよい。

事務局： ご指摘の点について確認のうえ修正する。

(3) ITU-R SG5関連会合への日本寄与文書（案）について

【資料地-35-3-1】

NTTドコモ 橋本氏から「研究課題ITU-R 242-1/5の改訂提案 固定・移動業務用オムニ・セクタアンテナの基準放射パターン」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

三瓶主査： どちらのWPが主なのか。

橋本構成員： 5CからSGに提出したほうがよい。来会期についてはどちらでも。

【資料地-35-3-2】

KDDI研 今田氏から「6GHz帯以下における広帯域無線アクセスシステムのローカルカバレッジ運用の新報告書案ITU-R M.[LOCAL_COVERAGE]の提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

三瓶主査： CG報告書案で最終に向けてOKということか。

今田氏： 日本としてはCG報告版が最終版としたいと思っている。

【資料地-34-3-3】

KDDI 大原氏から「6GHz帯以下における広帯域無線アクセスシステムのローカルカバレッジ運用の新勧告案作成についての作業計画の提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

橋本構成員： 5A/614は何か作業計画を書いていたのか。

大原氏： 触れていたが、前回の新勧告案にはこだわらない。まず作業計画をつく

りたい。

三瓶主査： 新報告書案と勧告案の関係はどうなのか。また、想定するシステムはどのようなものか。

大原氏： 技術に関するまとめから勧告の要素を発展させる。比較的高い周波数を使う。孤立・隣接セル。マルチラットのなかでも柔軟に使えるシステムを考えている。

【資料地-35-3-4】

JVCケンウッド 谷口氏から「Report ITU-R M.2014-2 Digital land mobile systems for dispatch traffic の改訂提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

三瓶主査： このシステムの用途は？警察等公共無線全て含まれる。

谷口氏 自営通信。消防、公共、タクシーなどの一般業務も含まれる。本件規格はARIB規格とは別のもの。ARIB規格はIDRAで、本報告の初版から入っていたが、既に使用が終了している。

三瓶主査： 日本としてARIB規格は入れなくていいのか。

小川氏： 入れる要望があれば、そうするだろう。今回は特段ない。

橋本構成員： 日本として1つにしなくてはというわけではないと思う。世界中で使われるものなので

【資料地-35-3-5】

NICT 植田氏から「275 - 1 000 GHzの周波数帯で運用する陸上移動業務に取り組む新ワークアイテムとWorking Party 1Aへの返答リエゾン文書の提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

三瓶主査： 275-325GHzが移動業務に適しているのか、適用可能なのか。1Aの元の報告の文章のニュアンスはどうなのか。

植田氏： suitableとある。

三瓶主査： 現実の実用化はついていけないと思うが、実現可能性が心配。

植田氏： 将来的に使えるようになる前に研究を進める意味で書いた。

三瓶主査： 1～2年で報告案作ると思うが、SG5は現実論が大事。表現は気をつけて。

小川氏： considering d) , e) に、bandwidth above という表現があるが、larger than のほうがよい。

植田氏： 修正する。

【資料地-35-3-6】

NICT 辻氏から「新レポート草案ITU-R M.[RAIL.LINK]に向けた作業文書への修正提案」

について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

小川氏： 履歴を統合し、backgroundのフォーマットを直した方がよい。

三瓶主査： 要旨では業務用中心に見えるが、違うのか。2.2~2.4が業務用と公衆無線が一体化しているように見える。問題ないのか。

辻氏： 業務用も公衆無線も含めている。もともとの提案が公衆無線。ITUの中では公衆系と認識されていると思う。自営系でも利用する要望、

三瓶主査： 公衆無線を自営に拡張することにきちんと意思を示してはどうか。

辻氏： 会議の場ではその意思を表明する。

【資料地-35-3-7】

ARIB 小山氏から「車車間及び路車間通信に関する新勧告草案へ向けた作業文書への改訂提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

橋本構成員： IEEEの入力は何かあったか。

小山氏 2件入力あった。それらを埋め込み、報告完成させる。

【資料地-35-3-8】

ARIB 小山氏から「高度ITS無線通信に関する暫定改訂報告案ITU-R M.2228に対する修正提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

三瓶主査： ほぼ作業完了の見通しか。

小山氏： マイナーな修正をし、終了させる。

【資料地-35-3-9】

ARIB 小山氏から「暫定新報告案ITU-R M. [ITS USAGE]「ITU加盟国におけるITS情報通信システムの利用状況」に関する作業文書への修正提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

三瓶主査： この内容、APTでまとめた内容と日本の提案は別になるのか。

小山氏 AWGのTG-ITSとしてAPTの中で検討を進めている。ITUでの検討と並行して、日本も含めAPT全体として提案する。

橋本構成員 APT加盟国の承認を得てITUに入力するわけではないのか。

小山氏： どうすれば効率的になるか考えたが、この形とした。

【資料地-35-3-10】

日本無線 田北構成員から「ITU-R勧告M.493-13改訂草案の修正提案 海上移動業務で用いるデジタル選択呼出システム」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

橋本構成員： 英文introduction 3パラグラフ目について、laboratoriesに。

new→revisedに。また、Annex 1について、P3にchairman's questionと

あるが、これは会合の場でフォローしてはどうか。

田北構成員： 承知した。指摘の点は修正する。

【資料地-35-3-11】

NTTドコモ 橋本構成員から「WP5Cに割り当てられた研究課題の見直し」について説明があり、特段の質疑なく、承認された。

【資料地-35-3-12】

NTTドコモ 橋本構成員から「WP議長のSG5への報告に関する要素案 WRC決議で要請された研究の進捗状況」について説明があり、特段の質疑なく、承認された。

【資料地-35-3-13】

NTTドコモ 荒木氏から「暫定新レポート案ITU-R F. [FS.IMT/BB]の作業文書の修正提案 IMTと他の地上モバイルブロードバンドシステムのバックホールに関する固定業務の用途」について説明があり、以下の質疑の後、承認された。

三瓶主査： front、back、midの意味。backhaulingとbackhaulの違いは。

荒木氏： 違いがある。リエゾンで定義の確認。

三瓶主査： ingつけたら適切だ、というのは何なのか。用語が学術的に確かかかという議論を飛ばして、こういう用語があるから取り込もうというのは違うのではないか？

荒木氏： 言葉の議論で、適切な呼び名が必要ということは合意がある。

橋本構成員： 5D、ITU-Tからもリエゾンがあった。用語の意味統一は時間がかかり、定義を決めてから報告を作ろうというのは現実的ではない。したがって、どの用語を選ぶとしても、どういう意味とすることで合意となったかを押さえて報告等作成することになっている。

三瓶主査： これに限らず、ITUにおいて用語の定義の仕方が曖昧だと感じることもあり、気になっている。

橋本構成員： P11に定義並べている。

【資料地-35-3-14】

NTTドコモ 荒木氏から「暫定新勧告案ITU-R F. [FS DEPLOY]の修正及び最終化への提案 固定業務のPoint-to-pointシステムの配置シナリオ」について説明があり、以下の質疑の後、承認された。

三瓶主査： もめる要素はもうないのか。

荒木氏： 完成度が高いので大きな入力が無い限りこれで作業終了。

【資料地-35-3-15】

NTT 大槻氏から「勧告 ITU-R F.1247-3, F.1249-3, F.1509-2の改訂に関する提案」について説明があり、以下の質疑の後、承認された。

三平主査： Attachment 4のYYY、ZZZに入るものは何か。

大槻氏： 勧告案に格上げされれば、ここにその文書番号を入れる。寄書としてはこのままで入力の手配。

【資料地-35-3-16】

NICT 植田氏から「275 - 1 000 GHzの周波数帯で運用する固定業務に取り組む新ワークアイテムとWorking Party 1Aへの返答リエゾン文書の提案」について説明があり、以下の質疑の後、承認された。

橋本構成員： Attachment 2 F2323将来改訂の作業文書。提案予定あるのか。イタリック体のnote部分についてjapan'sよりeditor's noteのほうがよい。

植田氏： 修正する。

(4) ITU-R SG5 関連会合への対処方針案について

【資料地-35-4】

事務局より、ITU-R SG5関連会合への対処方針（案）について説明が行われ、承認された。

(5) その他

事務局より参考資料の説明があった。

本日の審議を経て、修正の必要がある寄与文書については、6月24日（水）中までに事務局に提出することになった。

また、承認された寄与文書について、大きく主旨の変更がない限りは、文書案の変更の可能性のある旨、事務局から了承を求め、承認された。

外国寄与文書の対応については、日本代表団を中心に外国寄与文書審議表を作成し、対処に用いることとする旨説明があり、承認された。

以上